

「仲間と出会う」

代表理事代行 北島 道俊

1. 仲間いろいろ

思いがけないことに、数え年80才になってしまった。そしてこの間大勢の仲間が出来た。

仲間というからには相当親密かというのと、そうとも限らない。志を同じくしているかというのと、そうでもない。それどころか、顔を知らない仲間もいる。同窓会でも、会社のOB会でも会場では確かにみんな仲間だ。

学生仲間には著名人もいて嬉しい。つい、「かのミスター半導体、西澤潤一君は僕の仲間だ」と初対面の人にいうと、それだけでちょっと尊敬のまなざしが返ってきて、その人は大体僕の名前を一度で覚えてくれる。それどころか、案外、別な話題がスムーズに進みだすこともある。高校時代のクラスメートだから嘘ではないし年賀状の交換はしている。仲間というだけで信頼関係まで引き出してくれる不思議な効用である。

会社関係の仲間といってもいろいろである。事業場ごとの仲間、職掌別の仲間、配属職場の仲間、それに趣味仲間など。私はコンビナートに勤務していたこともあるので、20社ほどのコンビナート仲間という仲間もいる。考えてみると、これら仲間は、職業の場で、競争と協調の二様の関係で縁をもった集団にいた人々である。

2. 仲間の中の仲間

70才頃までの、このような色々な仲間との出会いの中で、いまでも時々一緒に集まって、談笑し安否を問いつく仲間がいることは幸いである。

これらの人々は仲間の中の仲間、実は僕の学業や職業にまつわる環境で、特に人生を広げて呉れた人々なのである。

3. HEARTの会での新しい仲間

さて、HEARTの会は今年が発足10年目になる。各方面の方々との相互啓発ということで、職業を越えて集まった任意の集団である。

私は以前から、職業とは別なもっと広い相互啓発環境が欲しいとの思いがあったので、提起された「人間環境活性化研究会」という発想の会の創設に賛同、運営に参画させてもらった。

ここで私は、人間・・人生、環境・・共生、活性化・・再生、研究・・探索、会・・出会；即ちHEARTという視点を共有した、職場とは一寸違った多数の仲間と出会うことが出来た。

そしてこうして新たな仲間の出来る環境は、従来の仕事仲間とも、仕事を越えた人間関係を豊かにしてくれる様で、いろいろな仲間が呉れる相乗効果のあることを知った。

特に第一線の職務を現在持っておられる方々から、HEARTの会との出会いを感謝されることがあり、会の存在意義を再認識させられる。従って、今や、より若い年代にも魅力をもって注目される会になっていくことを願う心境である。

実はこの会の草創期に、こういう会の有用性を意識して全く篤志の経済的支援をして下さった今は亡き諸先輩の密かな支えで、ここまで来たといえる。これらの方々が残してくれた恩恵の十年目、これらを元に、HEARTの初心を温めつつ、活動面でも経済面でも、会員が相互に支え合い、広い年代層の仲間と出会える会としての魅力を高め、それが社会貢献になる様に工夫し存続していくの

が今後の課題であろう。

(元徳山石油化学(株)専務)